

## 「月間マスコミ評」2015年4月

写真はジャーナリスト4月号に掲載された「月間マスコミ評 新聞」の拙稿である。今年度も執筆させてもらえるようで、ありがたい。担当してから9年半も経つが、これまでのように張り切って書いていきたい。

昨夏に出版した『災後の新聞』あとがきに次のように記している。本書のなりたちは、日本ジャーナリスト会議（JCJ）が毎月発行する『ジャーナリスト』の「月間マスコミ評」に寄稿した原稿をもとにしている。軽い気持ちで原稿を引き受けて、2006年10月から隔月で執筆して、早いもので8年近くになる。掲載された原稿は47本を数える。執筆開始はちょうど第1次安倍政権が誕生した頃であり、新聞各紙をじっくり読んで論評するのに悪戦苦闘した。隔月の執筆なので、原稿締め切り近くになると、2ヵ月分の新聞スクラップを読み返す。勉強にはなったが、慣れないうちは時間ばかりかかった。

『災後の新聞』を出版した昨年8月以降、毎朝レポートを書くようになった。もう9ヵ月近く続けている。退職後の生活にリズムができて、書くのが楽しくなってきた。これも『レポート集』サイトに原稿をアップしてもらっている大学院修了生、レポートを待っている読者のおかげである。レポートにより、「マスコミ評」の原稿も書きやすくなった。

4月号は「これからの日本を左右する大阪の住民投票」というタイトルがつけられている。いつもタイトルはプロである編集部に任せているが、私の思いにぴったりである。27日に「大阪都」構想の賛否を問う住民投票が告示され、タイムリーな掲載となった。

(2015年4月29日)

